

PD-L1 and IDO-1 expression in undifferentiated pleomorphic sarcoma: The associations with tumor infiltrating lymphocytes, dMMR and HLA class I

石原, 新

<https://hdl.handle.net/2324/4474987>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名：石原 新

論 文 名：PD-L1 and IDO-1 expression in undifferentiated pleomorphic sarcoma: The associations with tumor infiltrating lymphocytes, dMMR and HLA class I
(未分化多型肉腫における PD-L1 および IDO-1 の発現と腫瘍浸潤リンパ球、dMMR、HLA class I の検討)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

未分化多形肉腫は予後不良の軟部肉腫である。近年、SARC028 において軟部肉腫におけるがん免疫治療の有効性が報告された。今回の研究は未分化多形肉腫において PD-L1 と IDO-1 の発現が予後予測因子または治療標的となるか検討することを目的とする。九州大学形態機能病理に蓄積された 52 例の未分化多形肉腫を対象とした。PD-L1、IDO-1、CD8、CD4、CD3、HLA class I、MLH1、MSH2、MSH6、PMS2 の免疫染色を実施した。52 例中 19 例 (36.5%) が PD-L1 を 1%以上発現、52 例中 5 例 (9.6%) が PD-L1 を 50%以上発現していた。52 例中 25 例 (48.1%) が IDO-1 を発現していた。2 例が dMMR と判定され、6 例が HLA class I 発現を欠失していた。PD-L1 の発現 ($\geq 1\%$) は CD8、CD3 陽性腫瘍浸潤リンパ球数と相関していたが、PD-L1 の発現 ($\geq 50\%$) においてはその相関は有意ではなかった。IDO-1 の発現 ($\geq 1\%$) は CD8、CD4、CD3 陽性腫瘍浸潤リンパ球と相関していた。生存解析において PD-L1 の発現 ($\geq 50\%$) は予後不良因子、IDO-1 の発現は予後良好因子であった。結論として、未分化多形肉腫は PD-L1 と IDO-1 を高頻度に発現しており、PD-L1 の発現 ($\geq 50\%$) は予後不良因子、IDO-1 の発現は予後良好因子と考えられた。